

令和6年4月1日

令和5年度 一年間の振り返り (施設の自己評価結果報告書)

八田荘こども園

◆園全体◆

- ◎コロナ禍が落ち着いてきたので、各学年において散歩等の園外活動、また年長児はさいせいデイサービス（高齢者施設）への訪問を再開した。散歩では異年齢児が一緒に行くことで年上のお友達が、年下のお友達の手を引いてあげる姿が見られ、デイサービスでは高齢者のお手伝いをするなど、子ども達の思いやりの気持ちも育まれた。
- ◎参観を再開するにあたり、一斉に行う形ではなく、普段の様子を見ていただけるよう平日に参観期間を設け、保護者参加型に変更した。そうすることで、見に来る大人の人数が減り子どもたちが落ち着き、特別な保育ではなく日頃の保育の様子を見てもらうことができ、給食の試食も取り入れたことで味付けや量等の参考になると好評だった。
- ◎保育室に観葉植物を置くことで、心が癒され、お部屋の雰囲気が変わり良かった。
観葉植物だけでなくお花を飾ることで、季節の花を知るきっかけになった。
- ◎発達支援として、専門的な研修を2か年受講終了した『あい・さかいサポートリーダー』のいる『あい・さかいサポートリーダー配置認定施設』となった。その研修を活かして、支援・配慮を必要とする子どもたち、またその子どもたちに寄り添う職員に対し園全体で悩みや情報を共有し、意見交換や支援方法を一緒に考える場として『あい・サポート会議』を月一回おこなった。また、配慮を必要とする子どもに対して静かになりたい時、休憩したい時など、一人一人の気持ちを大切にできるように『ぽかぽかるーむ』という安心できる小さなお部屋を設けた。
- ◎近年子どもの主体性を大切にする教育保育が注目されている。当園においても自分達で『選択する』・『考える』・『意見を出す』・『子どもと大人と一緒に創り上げる』ことができるよう、そしてコロナ禍が明け異年齢での交流が行えるよう、代表的な行事の改革を行った。初めての取り組みであるため、課題や職員への負担もあったが、保護者からのアンケートでは好評の意見が多かった。これからも子ども達の主体性を大切にした、日々の保育や行事となるよう取り組みを継続したい。

◆各クラス◆

●年間目標 もも組（0歳児）

- ・一人ひとりの生理的リズムを大切にし、生理的欲求を満たし、安心感の中で過ごす
- ・身の回りに対する興味や好奇心を育て、歩行や運動機能の獲得と発語への意欲を育む
 - 家庭と共有し、睡眠、食事、排泄など個々に合わせて生活リズムを整えることができた。情緒の面でも思いを受け止め応えることで安心して過ごす姿が見られた。
 - ずり這い、ハイハイ、つかまり立ち、伝い歩き、歩行とその時々に合わせて環境を設定し、運動機能の獲得に繋がった。保育室内に写真や絵本を貼り、それらを季節や発達に応じて貼りかえることで発語のきっかけになった。

●年間目標 ばら1組（1歳児）

- ・一人ひとりの生理的欲求や自我の芽生えを大切にしながら安心して生活をする。
- ・保育者と信頼関係を築き、子ども同士の関わりを通じて言葉の理解や発語を育て、言葉のやり取りを楽しむ。
 - 自分の思い通りにいかないことや甘えたいときは保育者に身振りや言葉で伝えていた。
 - 遊びを通して友だちとの関わりが増えた。友だちと同じものが欲しく、トラブルになることもあったが、保

育者が仲立ちすることで納得したり気持ちの切り替えが出来たりしていた。

→天気の良い日は園庭に行って身体を動かし、砂場で型ぬきをするなどし、個々で楽しんでいた。

→個人差はあるが、衣服の着脱を意欲的に取り組めるようになってきた。

→食事面では苦手なものは無理することないよう個々に合わせて小さくし、言葉掛けを工夫したことで少しずつ苦手な意識が減り、食べられるようになった。

●年間目標 ばら2組（1歳児）

・安心できる保育者に見守られながら、簡単な身のまわりのことを、少しずつ自分でやってみようとする気持ちが持てるようにする。

・好きな玩具を見つけ、ひとり遊びを十分に楽しみながら、自分の思いを簡単な言葉で伝えようとしたり、保育者や友だちと関わって楽しむ。

→新入園児が多い中、不安な気持ちに寄り添い関わる事で、保育者に甘えたり、欲求を伝えたりする事が出来るようになった。

→身のまわりのことを自分でしようとする気持ちを大切にし、一人ひとりに合った関わりをする中で、自分で出来た喜びを感じ、より挑戦する姿がみられた。

→ひとり遊びが十分にでき、保育者の仲介により友だちとの関わりも増え、簡単な言葉でのやりとりを楽しめるようになってきた。

●年間目標 ひまわり1組（2歳児）

・保育者と安定した関わりの中で、身の回りの事を行い、自分で出来る喜びを感じる。

・様々な経験を通して言葉が豊かになることで、自分の気持ちを言葉で表現し、やり取りを楽しみ、やりたい遊びを見つけ、十分に楽しみながら友達との関わりを広げていく。

→個々の成長に合わせて無理なく身の回りの事などを丁寧に行うことで、自分で出来ることが増えてきた。

子ども達の思いに寄り添い、環境を工夫し整える事で楽しく過ごせるようになった。様々な経験を積み重ね、一人一人の興味関心が広がり、意欲的に遊びを楽しめるようになった。

職員間で日々話し合い力を合わせて保育する事、そして保護者の方々のご協力により一人ひとりの成長に繋がったと感じている。

●年間目標 ひまわり2組（2歳児）

・保育者に見守られながら、基本的な生活習慣を少しずつ身に付け、自分で出来る喜びを感じる。

・落ち着いた雰囲気の中で過ごすことで、自分で好きな遊びを見つけ、安心して表現し行動することで、自分に自信がもてるようになる。

→保育者に見守られながら次々と身の回りの事ができるようになった。着脱面では、自分で汚れに気付いて着替え、脱いで裏返しになった衣服を元に戻し畳む姿が見られる。排泄面では、布パンツに移行した友達に刺激を受け、意欲的にトイレトレーニングを行いながらトイレで排泄する感覚を覚えて成功を喜んでいる。

→好きな遊びを十分に楽しむ中で友達同士での関わりも増え、言葉で自分の思いを伝えようとする姿が見られる。時に友達と思いがぶつかり合うこともあるが、少しずつ玩具の貸し借りや順番など生活の簡単なルールを学んでいった。

●年間目標 うめ1組（3歳児）

・生活の流れに見通しをもち、身の周りのことも自分でしようとする気持ちを育てる

・様々なことに関心興味をもち、友だちとも触れ合いながら楽しんで遊ぶ

→一つひとつやり方を丁寧に知らせ、それでも難しい部分は個別で対応するなど一人ひとり無理なく身の回りのことができるようにした。また、手順を写真にして分かりやすく伝えるなどの工夫をした。できた時は褒め自信や意欲がもてるようにした。

→子どもたちができるだけ様々なことやものに興味関心がもてるよう、保育室内に写真を貼る、おもちゃを用意するなどした。友だちとの輪が広がるよう、二人やグループでできるゲームやふれあい遊びなども取り入れた。

●年間目標 うめ2組（3歳児）

- ・身の回りのことを自分でしようとし、意欲的に活動する。
- ・感じたことや欲求を自分なりの方法で表現する。

→“したい”“やってみたい”という気持ちが強く、1年間を通して色々なことに挑戦してきた。その中で失敗を経験しながらも意欲的に活動し保育者の力を借り、また友だちと協力して最後まで諦めずにやりきることが増え成長することができた。

→少しずつ人の気持ちを考えるようになり、自分の感じたことや気付いたことを積極的に発言し表現しようとする姿が多く見られるようになってきた。また、友だち同士でも気持ちを伝え合うことができるようになってきており、日々の保育の中で友だちと助け合い、困っている友だちに声を掛ける様子も見られている。

●年間目標 すみれ1組（4歳児）

- ・友だち同士の関わりの中で不安になる、辛くなるという心の動きを十分に察して、それぞれの良いところや得意なことを積極的に認め、一人ひとりがかげがえのない存在であることに気付けるようにする。
- ・友だちと一緒に遊び、活動する中で、関わりを深めながら友だちの考えていることを理解して行動し、手伝いや親切にすること、されることを喜ぶ。

→新たにクラス替えを行い、職員も変わったことで始めは戸惑いや不安な様子が見られたが少しずつ慣れると人間関係も広がり、行事を通して団結する力も身につけることができた。コロナ対策が緩和され、運動会では観覧者の人数の多さに圧倒される子ども達の様子が見られたが、2月の音楽発表会では大人数の観客にも慣れ、練習以上の力を発揮し同時に達成感も感じている姿が見られ、大きく成長出来た。

●年間目標 すみれ2組（4歳児）

- ・友だち同士の関わりの中で不安になる、辛くなるという心の動きを十分に察して、それぞれの良いところや得意なことを積極的に認め、一人ひとりがかげがえのない存在であることに気づけるようにする。
- ・友だちと一緒に遊び、活動する中で、関わりを深めながら友だちの考えていることを理解して行動し、手伝いや親切にすること、されることを喜ぶ。

→進級にともないクラス替えをしたので、当初は元のクラスで分かれて遊ぶことも多く、自分の思いを言い出せずにいる姿が見られた。子どもの思いを汲み取りながら、思いを言葉にして伝え、保育教諭が間に入り様々な友だちと遊ぶ楽しさを感じられるように配慮した。また、生活の中でも一人ひとりが得意な事、好きな事を見つけられるよう、色々なコーナーを作り興味・関心が広がるような環境作りを行った。

→『自分の思いを伝える』『友だちの話を聞く』を目標に保育を進めた。その活動の1つとしてサークルタイムを行いクラスで話し合う事を大切にした。日々の活動の感想を発表し、行事では一人ひとり違った活動を報告し合い、友だちの話を聞くことで思いに気づき、認め合う姿がたくさん見られた。又、進めている遊びの報告、作品を紹介し合うことで友だちの遊びにも興味を持つことが出来た。後半になると困っている友だちに声をかけ、助け合う等優しく接する姿も多く見られた。

●年間目標 たけ1組（5歳児）

- ・友達と一緒に遊びや生活をするなかで、自分の意見を伝えながらも、相手の意見や立場を理解することで、協調性を育んでいく。
- ・生活の中で、充実感や満足感を持って、自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しを持って自ら健康で安全な生活を送る。
 - 友達と一緒に生活する中でトラブルになることも多く見られたが、少しずつ保育教諭が間に入らなくても、子ども同士で解決できる方法を見つけ、言葉で思いを伝え合い、相手の思いも聞けるようになってきた。クラスのスローガンを子ども達と話し合って決めたことで、友達を思いやる気持ちや友だちの良い所を探すなど、友達同士で認め合いながら、クラスみんなで過ごす大切さを感じることができた。
 - 毎日ホワイトボードを使って1日の流れを伝えるようにしたことによって、見通しを持ち時間を意識して過ごせるようになり、子ども自身で気持ちの切り替えができるようになった。子ども達の遊びをじっくり観察する時間をあまり取れず、子ども達が興味を示している遊びから発展させることができなかつたことは反省点である。苦手なこともコツコツと頑張ってみる大切さを伝え続けたことで、諦めずに取り組むことへの達成感を味わい、自信をつけることができた。

●年間目標 たけ2組（5歳児）

- ・友達と一緒に遊びや生活をするなかで、自分の意見を伝えながらも、相手の意見や立場を理解することで、協調性を育んでいく。
- ・生活の中で、充実感や満足感を持って、自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しを持って自ら健康で安全な生活を送る。
 - 自信が無く自分の意見を言えなかつたお友だちも、様々な活動の中で自分の得意なことや好きなことを見つけ自信がつき、自分の考えや意見を伝えられる様になってきた。
 - チームでの活動を増やしたことで少人数での話し合いが増え、自分の意見を言いつつ相手の意見を聞く力がついてきた。友だちの意見を聞いて、寄り添う優しい気持ちも育まれた。
 - 友だちの些細な変化や表情を敏感にキャッチして優しい言葉掛けをし、助ける姿が見られた。
 - 様々な行事を通して、みんなで作り上げていくことの大変さや楽しさ、やり切った時の達成感を感じている様子が見られるようになった。